

一分駅周辺の見所といえば……

石切神社 だよね～

近鉄生駒線一分駅から西へ6 km (生駒山越え)
または近鉄東大阪線新石切駅から 300 m

暗峠を越え、無事生駒山の西側に到達した取材陣は、さらに一分駅周辺の見所を探るべく、(少しだけ)電車に乗り、石切駅にたどり着いた。

もちろん生駒周辺のメジャー観光地・石切神社の調査のためなんだな。

駅を出ると、薬屋・土産物屋・食堂・占い小屋などが並び、にぎやかである。

途中、饅頭の調査をしたり、やたら不気味な解剖人形を飾る漢方薬屋や、牛の山車を見学しながら、石切神社への坂道を下る。



唐突に日本で3番目を名乗る大仏があった。

高さが日本で3番目だというのが、そんなに大きいとは思わなかったなあ。

それよりもこの大仏を建てたおっさんがやたら自己顕示欲の強い人で、この石切周辺にやたら「自分は世のために1億円分の土地を寄贈した」とか「老人センターも作った」等の石版を建てまくっているのだ。黒御影の立派な石版



なのだが、そのお金ももっと困っている人のために使ってはどうか、S本さん、と言いたくなるのだった。

ちなみにこのS本さんは私設ショールームまで作って観光客の皆さんのお越しをお待ちしているので、石切に行かれるときは注意！だ。



さて、ようやく本題の石切神社であるが、「こぶ」や「できもの」の神様として有名なのだ。境内には「お百度まいり」のための、石板が2つある。たくさんの人が、この二つの石の間を早足で往復している。

みんな元気やなあ～。



取材班の中には「そのうちバターになるはずだから見届けよう」とか、「ただ単に100往復するのも退屈なので、ボールをドリブルしながらやってはどうか」という不謹慎な発言も飛び出していたが、誰一人としてバターにはならなかったし、もちろんボールを蹴っている人もいなかったぞ。



さて、あなたがお百度参りをすると仮定しよう。回っているうちにハイになってきて、何回回ったか分からなくなるのでは？という不安が生じないか？私は不安だぞ。こういう人のために、「お百度ひも」というものが売られている。こよりを100本束ねてあるだけの単純なものだが、1回回るごとに、このヒモを1本折っていけば確実に100回回れると、そういうものだ。なかなかのアイデア商品だよ。



また、石切神社には、小さな池があって、この池に願い事を託したカメを放つと、願いが叶う(かもしれない)という伝説がある。

そこでこの小さなカメと願い事シートがセットになって石切神社から公式販売されている。もちろんカメは箸置き程度の大きさの焼き物だ。そのおなかの部分空洞になっていて(オットツミみたい)、願い事を書いた紙をその中に入れるらしい。

(石切神社 おわり)

やっぱり うまい夕飯こそ全て でしょう！



HARUKOMA SUSHI
春駒寿司



近鉄生駒線一分駅から西へ20 km

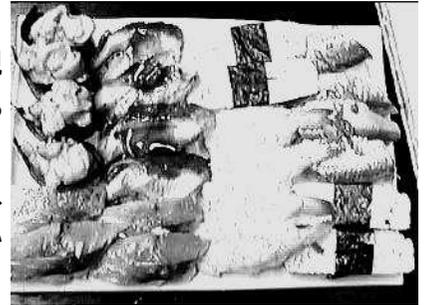
または地下鉄天神橋筋6丁目から 100 m

ああ寿司を口一杯に頬張りたい、腹一杯に食べたい、こう夢想しながらも日々、平凡な人生を過ごしておられる御仁も多いはず(私だけではないはず)だ。

そうした熱き胃袋に雄叫びに、果敢に応える寿司ショップがある。

……などと先月号でも書いたような気がしないでもないでもないが、まあいいか。

春駒は、普通の寿司屋である。店内はカウンター席、奥にテーブル席という構成だ。まったく普通。ただ店の規模に比べて職人さんが多いな、と入った瞬間思ったくらいのもんだ。先月号の「まぐろ亭」は、今になって思うと、かなりクレイジーな寿司屋だったが、ここ「春駒」はシステムもネタ・シャリもまったく普通だ。唯一違うのは、安いということ。



この安さゆえ、方々から人々が集まり、行列ができる。我々も5時過ぎに到着したが、すでに10人ほどが並んでいた。私個人としては、行列してまで食いたいものなど無いと思っていたのだが、この認識は今では取り消さざるを得ない。



そう、行列してでも食いたい、と思わせるだけのものがあるということだ。

マグロ・イカ・タコ・アナゴは100円。ハマチ・ウナギ・エビが120円。ウニやカニだって200円である。もちろん一皿に2個ずつだぞ。味・量ともに一般的であるにも関わらず、この値段というのは、まったくもってアンビリーバブルであるぞ。

ビールを飲んで、寿司をまあ腹一杯食って3000円未満とは！

……ということで、今週末、もう一回行って来るぜ。

みなさんにもカ一杯、おススメするぜ。もちろん評価は

GOOD